

はじめに

医師や看護師の国家試験では毎年のように〈国民医療費〉について出題されます。

総額は年々上昇して何と48兆円に達しています。

国民一人当たり39万円になります。

56年前の1970年のそれは2.5兆円でした。

即ち20倍になっているのです。単純に比較できないにしても膨大な金額になっているのです。

ではその結果、日本人は健康で幸せな人生を送れているのでしょうか？

日常生活が可能な〈健康寿命〉と〈平均寿命〉の間には男性で9年、女性では13年の差があります。

即ち亡くなる前の10年近くは満足な日常生活をおくることができなくなっているのです。

そのためには、生活習慣に気を付けるのはもちろんですが、主な病気についてはある程度知識を持って、日常から注意する必要があります。

そして、それら病気の医療費についても知っていることは重要なことだと思われれます。

この冊子が少しでもお役に立てたならこれに勝る喜びはありません。

日本が混沌としている2026年晩夏 監修者記す

もくじ

〈Ⅰ〉公的医療保険制度の仕組みと内容..... 3

医療保険制度と自己負担.....	4
自己負担の仕組み.....	5
保険でカバーできる診療範囲.....	6
重くのしかかる自己負担.....	7
主な先進医療.....	8
医療費が高額になった時.....	9
高額医療・高額介護合算療養費制度.....	12
特定疾病療養費.....	13
病気でも受け取れる障害年金.....	14
マイナ保険証があれば、限度額以上の支払いは不要.....	15
高額療養費の盲点.....	15
DPC(入院費包括払い制度).....	16
公的医療保険が使えない診療行為.....	17
病気やケガで仕事を休んだ時.....	18
災害弔慰金・災害障害見舞金.....	19
出産・死亡等には一定額の支給も.....	20
年間医療費が10万円を超えた時.....	21
入院時食事療養費.....	22

〈Ⅱ〉がんの再発率と5年生存率..... 23

がんの再発率.....	24
肺がんの5年生存率／胃がんの5年生存率.....	26
大腸がんの5年生存率／子宮頸がんの5年生存率 ／子宮体がんの5年生存率.....	27
乳がんの5年生存率／肝がんの5年生存率 ／膵がんの5年生存率／食道がんの5年生存率.....	28

〈Ⅲ〉主な傷病別医療費..... 29

肺がん.....	30
胃がん.....	31
大腸がん.....	32
肝がん.....	33
乳がん.....	34
子宮がん.....	35
膵臓がん.....	36
心疾患.....	37
脳血管疾患.....	38
糖尿病(2型).....	39
腎臓がん(通院治療).....	40
妊娠中絶.....	41
高価な抗がん剤・がん治療薬.....	42
気になる差額ベッド料.....	43



主な先進医療

——注目集める陽子線、重粒子線治療

先進医療の代表として真っ先にあげられるのが「陽子線治療・重粒子線治療」です。がんに対する放射線治療は古くから行われていますが、通常のエックス線などよりもさらに効果があるのが、陽子線や重粒子線です。これからのがん治療を考えたとき、大きな期待が寄せられている治療法の一つです。ただし、施設・設備の建設、維持に大きな費用がかかるため治療費も300万円近く、患者さんには大きな負担となっています。先進医療にはその他にもさまざまな種類のものがありますが、いずれもそれにかかる治療費は患者さんの自己負担となります。

《主な先進医療の種類と費用》

高額療養費の対象にはなりません。全て自己負担です。

技術名	実施件数	特別料金(平均額) (全額自己負担)	平均入院 日数
陽子線治療	739件	278万895円	18.4日
重粒子線治療	303件	318万9,452円	4.0日
強拡大顕微鏡を用いた形態学的精子選択術	17,209件	2万375円	0.1日
ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術	16,278件	3万1,783円	0.0日
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	98,871件	4万1,608円	0.0日
子宮内膜刺激術	28,090件	3万6,637円	0.0日

これ以外の診察・検査・投薬など通常の治療と共通する部分は公的医療保険が適用され、3割負担となります。

2024年7月1日～2025年6月30日における平均値です。（中央社会保険医療協議会資料により）

医療機関により、多少金額は異なります。

がんの再発率

《いったん治っても・・・》

がんの再発

組織的に確認されたがんが治療によって臨床的に消失し、一定期間を経過した後に、同部位または近辺に再び同じ組織型のがんが発生すること。ただし、がんの再燃(ホルモン療法等で体に残っているものの休眠状態にあったがんが、再び活発に増殖に転じること)や多発がんは除外する。厳密には、治療によって根絶されず耐え抜いたがん細胞が時間を経て成長し、臨床的に発見された場合が再発である。

●肺がん

・再発率(非小細胞がん・根治手術可)

	(1年)	(3年)	(5年)
I A・B 期	1～2%	2～3%	5%
II A・B 期	5～8%	6～9%	10～12%
III A 期	10～15%	18～20%	25～28%



●胃がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I 期・II A 期	0～3%	2～9%	12%
II B 期	5%	12%	



●子宮頸がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I 期	0～3%	3～5%	10%
II 期	3%	10%	15%

※かつては女性生殖器がんの中で最も多く、子宮がんは子宮頸がんがほとんど。



●子宮体がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I 期	3%	3%	5%
II 期	6%	6%	12%

※近年増加傾向で全子宮がんの50%以上を占める。手術療法が第一選択。化学療法も放射線療法も効果が薄い。



5 年 生 存 率

肺がん

《全体の5年生存率は35～40%》

〈分類〉

(a)非小細胞がん 85%

①腺がん 55～60% ②扁平上皮がん 15～30% ③大細胞がん 5%

〔非小細胞がんの5年生存率は48%〕

	5年生存率
ステージⅠ	73～82%
ステージⅡ	46～57%
ステージⅢ	26～31%
ステージⅣ	6～9%

〈分類〉

(b)小細胞がん 15%

〔小細胞がんの5年生存率は5～10%〕

	5年生存率
ステージⅠ	38～43%
ステージⅡ	26～50%
ステージⅢ	16～25%
ステージⅣ	1～2%

© 谷 康平／社会医学環境衛生研究所

胃がん

《早期に発見できれば90%以上》

〔全体の5年生存率は70～75%〕

	5年生存率
ステージⅠ	91～96%
ステージⅡ	43～72%
ステージⅢ	15～21%
ステージⅣ	6～12%

© 谷 康平／社会医学環境衛生研究所

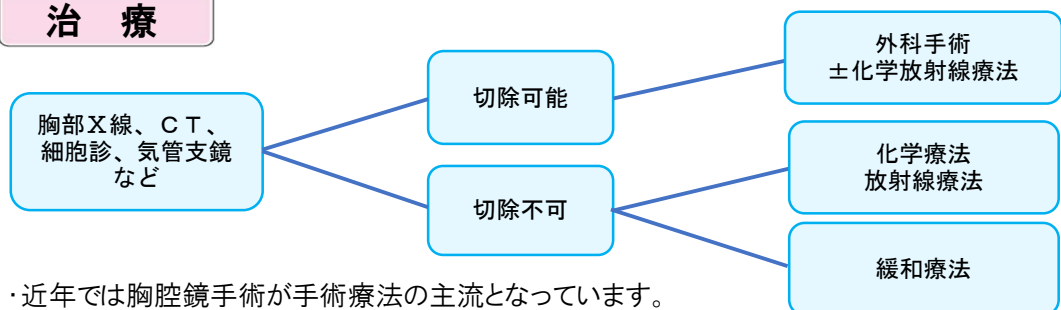
肺がん



概要

- ・高齢男性に多い癌。
- ・悪性腫瘍の部位別死亡率では男性で第1位、女性で第2位。
- ・喫煙やアスベスト曝露、慢性閉塞性肺疾患などが原因。
- ・進行が速いものもあり、診断時には浸潤や転移していることもあります。
- ・咳、喀痰、喀血、発熱、体重減少などが出現します。腫瘍が拡大し周囲の臓器に影響を与えると嚔声、嚥下困難、胸痛などの症状が出ることもあります。
- ・検診では胸部 X 線検査や喀痰細胞診などが行われます。癌が疑われた場合はCT検査や気管支鏡検査が行われます。

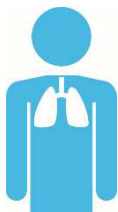
治療



- ・近年では胸腔鏡手術が手術療法の主流となっています。
- ・発見された時点で進行しており切除不能な例も多くあります。

具体例

55歳男性。会社の定期検診で指摘されて 精査の結果、肺腺がんが見つかった。
入院15日。



標準的な医療費（患者本人の自己負担分のみ）

計 43.5 万円

（これ以外にも、食費、差額ベッド料、寝具料、その他雑費等も必要になります。）

医療費明細

〈包括評価部分〉……………654,300 円

〈出来高部分〉……………798,400 円

医療費合計…………… 1,452,700 円

患者負担額（3割）……………435,810 円

高額療養費の適用

27 万 5,817 円（標準報酬月額 83 万円以上）

18 万 7,657 円（標準報酬月額 53～79 万円）

9 万 7,467 円（標準報酬月額 28～50 万円）

6 万 1,500 円（標準報酬月額 26 万円以下）

3 万 6,900 円（住民税非課税）

（別途食事費用負担）